

第4回「第2期県立高校将来構想検討協議会」の協議の概要について

1 開催日

平成26年11月10日（月）

2 協議の概要

(1) 「第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について」のうち、「1 特色ある学校づくり」の協議における主な意見

- 高校教育の質を高めるには、拠点校を設置し、いい意味で学校も教員も切磋琢磨する必要がある。
- 各教科の教員を複数配置するなど望ましい教育環境を整備する上でも、ある程度の学校規模は必要である。
- 特色づくりにおいては、差別化と標準化の観点から、県立として且つ山口県としての特色を検討すべきである。
- 岡山芳泉高校が実施している、単位制を導入して縦の選択幅（難易度別科目設定）を拡大するカリキュラムは、山口県でも有効である。

(2) 「第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について」のうち、「2 学校・学科の再編整備」の協議における主な意見

- 今回のアンケート結果からも、生徒は「望ましい規模を確保する」ことを望んでおり、望ましい学校規模として1学年4～8学級は適切である。また、「適正規模」とせず「望ましい学校規模」と表現するのは、山口県の実態を踏まえているのでよいと思う。
- 望ましい学校規模については、山口県の地理的条件を配慮して、都市部と郡部で分けて検討することも必要ではないか。
- 地域の状況等を考慮することも大切であるが、活力ある教育活動を展開する上で、望ましい学校規模をめざして再編統合を進める考え方は重要である。
- 分校化は、ある程度の規模で切磋琢磨が必要という考え方と矛盾するので、積極的には検討しない方がよい。
- 原則として1学年4～8学級を望ましい学校規模とするが、分校化など生徒の教育への影響等を総合的に勘案しながら検討することは、山口県の実態を踏まえた進め方でよい。
- 高校へのコミュニティ・スクール導入は、学校の特色を補完するしくみとしてはよいと思う。

(3) 「第5章 将来構想の推進」についての協議における主な意見

- 現行構想の進め方と同じように、再編整備の基本計画を策定した後に実施計画を作るような進め方が必要だと思う。
- 拠点校を設置するのであれば、施設整備等、継続してサポートする必要がある。